

# 道路政策の質の向上に資する技術研究開発

## 平成22年度 中間評価・FS(革新的研究調査)評価について(概要)

### 1. 中間評価

#### 1-1. 目的

#### 1-2. 中間評価の対象

#### 1-3. 中間評価の視点及び基準

#### 1-4. 提出書類及び期限

#### 1-5. 中間評価の体制

#### 1-6. 中間評価の手順(スケジュール)

#### 1-7. 評価結果の通知及び公表

### 2. FS評価

#### 2-1. 目的

#### 2-2. FS評価の対象

#### 2-3. FS評価の視点及び基準

#### 2-4. 提出書類及び期限

#### 2-5. FS評価の体制

#### 2-6. FS評価の手順(スケジュール)

#### 2-7. 評価結果の通知及び公表

別紙1 評価分科会委員(案)

別紙2 研究評価会 議事次第(案)

# 1. 中間評価

## 1-1. 目的

中間評価は、新道路技術会議において採択され、実施されている研究について、研究の適切な実施を図るとともに、次年度以降の研究費の適正化に資することを目的。

## 1-2. 中間評価の対象

中間評価の対象は、複数年度にまたがる研究の最終年度を除く毎年度の研究成果とする。

## 1-3. 中間評価の視点及び基準

### (1) 中間評価の視点

#### (1-1) 1年目の研究を対象とした中間評価の視点

中間段階での成果を評価するのではなく、研究の見通しや進捗の評価を目的とする。

中間評価の視点は次のとおりとし、4段階(a～d)で評価する。

中間評価の視点	説明
研究の見通し	研究の目的・目標を効率的かつ計画通り達成するため、研究計画、実施方法、体制(研究遂行における研究代表者の主体性の確保を含め)が適切となっているか。
研究の進捗状況	研究の推進にあたり、研究目標の設定、研究計画、実施方法、体制、共同研究者の役割分担が明確になっているか。

評点	説明
a	適切である／順調である
b	概ね適切である／概ね順調である
c	やや適切でない／やや順調でない
d	適切でない／順調でない

## (1-2)2年目の研究を対象とした中間評価の視点

研究の進捗に伴い、研究成果の見通しに重点を置く。

(特に1年目の評価結果が芳しくなかった研究については、慎重に評価を行う。)

中間評価の視点は次のとおりとし、4段階(a～d)で評価する。

中間評価の視点	説明
研究の進捗状況	研究の目的・目標を計画通り達成するため、1年目の評価結果を踏まえ、研究は適切に進捗しているか。
研究成果の見通し	当初計画通りの研究成果が期待できるか(研究の進展により、独創的、画期的な研究成果が期待できるか)。また、研究成果の活用方策が明確になっているか。

評点	説明
a	順調である／大いに期待できる
b	概ね順調である／ある程度期待できる
c	やや順調でない／あまり期待できない
d	順調でない／期待できない

## (2) 中間評価の基準

中間評価の視点ごとの評価を踏まえ、研究継続の妥当性について4段階(A～D)で総合的に評価。

評点	区分	説明
A	現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B	現行のとおり推進 (指摘事項あり)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C	研究計画を修正の上 推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D	中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

# 中間評価シート(1年目の研究対象(左)、2年目の研究対象(右))

【様式1】-1

中間評価シート(1)(1年目の研究対象)

評価分科会委員

番号	研究名	研究代表者

## 1. 中間評価の結果

中間評価の視点	評点	意見
研究の進捗状況	a 順調である	
	b 概ね順調である	
	c やや順調でない	
	d 順調でない	
研究の見通し	a 適切である	
	b 概ね適切である	
	c やや適切でない	
	d 適切でない	

研究継続の妥当性評価	意見
A 現行のとおり推進	
B 現行のとおり推進(指摘事項あり)	
C 研究計画を修正の上推進	
D 中止	

## 2. 特記事項

(研究計画の修正を要する場合の修正内容、今後の研究計画・方法への指摘事項等。)

【様式1】-2

中間評価シート(2)(2年目の研究対象)

評価分科会委員

番号	研究名	研究代表者

## 1. 中間評価の結果

中間評価の視点	評点	意見
研究の進捗状況	a 順調である	
	b 概ね順調である	
	c やや順調でない	
	d 順調でない	
研究成果の見通し	a 大いに期待できる	
	b ある程度期待できる	
	c あまり期待できない	
	d 期待できない	

研究継続の妥当性評価	意見
A 現行のとおり推進	
B 現行のとおり推進(指摘事項あり)	
C 研究計画を修正の上推進	
D 中止	

## 2. 特記事項

(研究計画の修正を要する場合の修正内容、今後の研究計画・方法への指摘事項等。)

# 1-4. 提出書類及び期限

## (1) 提出書類

各研究の研究代表者は、以下の書類を提出  
 ①「研究状況報告書」  
 ②「研究開発年次計画・経費に関する調書」

## (2) 提出期限

平成23年1月31日(月)必着

※⑩~⑫は非公表

評 点	1年目の研究	2年目の研究
①研究代表者	氏名、所属、役職	
②研究テーマ	名称、政策領域、公募タイプ	
③研究経費	各年度の清算金額/受託金額/計画額	
④研究者氏名	研究代表者以外の主な研究者氏名、所属、役職	
⑤研究の目的・目標	提案書に記載した研究の目的・目標	
⑥これまでの研究経過	研究の進捗状況	
	研究計画、実施方法、体制の妥当性	—
⑦研究成果の発表状況	—	国際会議、学会等の発表状況
⑧研究成果の活用方策	—	成果の活用方法・手段等
⑨特記事項	研究の見通し・進捗の自己評価等	成果の見通しの自己評価等
⑩研究遂行上の問題点等	問題点及びその解決方法、見通し、要望等	
⑪H23年度(及びそれ以降)の研究計画	研究計画・方法、当初計画との変更点、外注の有無等	
⑫研究遂行における外注の実施	外注の目的、必要性、範囲等	

# 1-5. 中間評価の体制

- 評価対象研究(7研究)をソフト及びハード分野に区分し、2つの分科会を設置(P. 12(別紙1)参照)。
- 各分科会は、新道路技術会議委員(6名程度)、行政官(1名)、研究官(1名)で構成。
- 各分科会の分科会長は、新道路技術会議委員の中から選出。

## 1-6. 中間評価の手順(スケジュール)

中間評価の手順は、次のとおり。

### ① 書類の事前査読(書面による評価) (2月上旬)

- 事前査読は実施するが、書面による評価の実施は任意とする。
- 特記事項(委員からの指摘等)がある場合は、研究代表者へ事前に連絡。

### ② 研究評価会の開催(ヒアリングによる評価) (2月下旬)

- 分科会毎に研究評価会を開催(1研究あたりの時間は、報告15分、質疑15分、審議10分)(P. 13(別紙2)参照)。
- 分科会各委員は各研究の説明・質疑応答等を踏まえ、中間評価シートを作成。
- 中間評価シートを基に、中間評価(案)を作成するための審議を実施。

### ③ 中間評価(案)の作成 (~3月中旬)

研究評価会后、分科会長は中間評価(案)を作成。

### ④ 中間評価の決定 (3月下旬)

新道路技術会議において中間評価(案)を審議し、合議により中間評価を決定。

## 1-7. 評価結果の通知及び公表

中間評価結果は研究代表者に書面にて通知し、道路局ホームページ等において研究状況報告書と併せて公表(3月下旬頃)。

## 2. FS評価

### 2-1. 目的

新道路技術会議において革新的研究調査(以下「FS」という。)として採択され、実施されている研究(以下「FS研究」という。)の評価に際して必要な事項を定めることにより、次年度以降の採択の是非を決定することが目的。

### 2-2. FS評価の対象

FS評価の対象は、FS研究(単年度)として採択されたものとする。

### 2-3. FS評価の視点及び基準

#### (1)FS評価の視点

FS研究の評価の視点は、研究成果の見通しに重点を置く。  
評価の視点は次のとおりとし、4段階(a~d)で評価する。

FS評価の視点	説明
FS研究による研究成果の見通し	FS研究により、計画通りの研究成果が期待できるものとなっているか。
FS研究結果を踏まえた研究計画の妥当性	FS研究結果を踏まえた研究計画が妥当なものとなっているか。

評点	説明
a	大いに期待できる／妥当である
b	ある程度期待できる／概ね妥当である
c	あまり期待できない／やや妥当でない
d	期待できない／妥当でない

## (2)FS評価の基準

FS評価の視点ごとの評価を踏まえ、研究継続(新規研究として採択)の妥当性について3段階(A、B、D)で総合的に評価。

評 点	区 分	説 明
A	新規研究として採択	実現性は十分あると評価する。よって、次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B	新規研究として採択 (指摘事項あり)	実現性はあると評価するものの、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度の新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D	不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。



# FS評価シート

【様式1】

## FS評価シート

評価分科会委員

番号	FS研究名	研究代表者

### 1. FS評価の結果

FS評価の視点	評点	意見	
FS研究による研究成果の見通し	a	大いに期待できる	
	b	ある程度期待できる	
	c	あまり期待できない	
	d	期待できない	
FS研究結果を踏まえた研究計画の妥当性	a	妥当である	
	b	概ね妥当である	
	c	やや妥当でない	
	d	妥当でない	

研究継続の妥当性評価		意見
A	新規研究として採択	
B	新規研究として採択（指摘事項あり）	
D	不採択	

### 2. 特記事項

（研究計画の修正を要する場合の修正内容、今後の研究計画・方法への指摘事項等。）

## 2-4. 提出書類及び期限

### (1) 提出書類

各研究の研究代表者は、以下の書類を提出

- ①「研究状況報告書(FS研究対象)」
- ②「研究開発年次計画・経費に関する調書」
- ③次年度以降の「研究計画書(FS研究の結果を踏まえたもの)」を提出するものとする。

### (2) 提出期限

平成23年1月31日(月)必着

### 【研究状況報告書の記入項目・内容】

記入項目	FS研究(単年度)
①研究代表者	氏名、所属、役職
②研究テーマ	名称、政策領域、公募タイプ
③研究経費	当該年度の受託金額
④研究者氏名	研究代表者以外の主な研究者氏名、所属、役職
⑤研究の目的・目標	提案書に記載した研究の目的・目標
⑥FS研究の結果	FS研究により得られた結果
⑦本格研究の見通し	FS研究の結果を踏まえた本格研究における研究成果の見通し、研究目標の達成見込み、当初計画からの変更点等
⑧特記事項	FS研究から得られた知見、学内外へのインパクト、研究成果の見通し・目標達成度の自己評価等

## 2-5. FS評価の体制

- 評価対象研究(2研究)をソフト及びハード分野に区分し、2つの分科会を設置(P. 12(別紙1)参照)。
- 各分科会は、新道路技術会議委員(6名程度)、行政官(1名)、研究官(1名)で構成。
- 各分科会の分科会長は、新道路技術会議委員の中から選出。

## 2-6. FS評価の手順(スケジュール)

FS評価の手順は、次のとおり(中間評価のスケジュールに合わせて実施)。

### ① 書類の事前査読(書面による評価) (2月上旬)

- 事前査読は実施するが、書面による評価の実施は任意とする。
- 特記事項(委員からの指摘等)がある場合は、研究代表者へ事前に連絡。

### ② 研究評価会の開催(ヒアリングによる評価) (2月下旬)

- 分科会毎に研究評価会を開催(1研究あたりの時間は、報告15分、質疑15分、審議10分)(P. 13(別紙2)参照)。
- 分科会各委員は各FS研究の説明・質疑応答等を踏まえ、FS評価シートを作成。
- FS評価シートを基に、FS評価(案)を作成するための審議を実施。

### ③ FS評価(案)の作成 (~3月中旬)

研究評価会后、分科会長はFS評価(案)を作成。

### ④ FS評価の決定 (3月下旬)

新道路技術会議においてFS評価(案)を審議し、合議によりFS評価を決定。

## 2-7. 評価結果の通知及び公表

FS評価結果は研究代表者に書面にて通知し、道路局ホームページ等において研究状況報告書と併せて公表(3月下旬頃)。

## 評価分科会 評価担当研究・委員(案)

分科会	領域	タイプ	採択年度	委託研究テーマ	研究代表者	評価分科会	
						分科会長	委員
ソフト分科会	1	I	H 21	道路交通の時間価値についての研究	東京大学大学院 准教授 加藤 浩徳	家田委員	赤羽委員 太田委員 川嶋(弘)委員 佐々木委員 竹内委員 中越委員 吉川委員 道路局担当官 国総研道路研究官
	3	II	H 21	地域ITS技術を用いた車線・道路幅員減少区間等における安全かつ円滑な走行支援手法の研究開発	高知工科大学 教授 熊谷 靖彦		
	3	I	H 21	複合データによる道路サービス・パフォーマンス情報システムの研究開発	筑波大学大学院 教授 石田 東生		
	3	II	H 22	都市高速道路における突発事象時の最適交通運用についての研究開発	(社)交通工学研究会 理事、 神戸大学大学院 教授 朝倉 康夫		
	6	I	H 22	混合交通流の自動解析に基づく交通安全性・円滑性評価手法および交通制御・道路運用手法の構築	京都大学大学院 准教授 須崎 純一		
ハード分科会	8	II	H 21	水分履歴を考慮した不飽和道路盛土の耐震性の評価法と強化法	京都大学 教授 岡 二三生	三木 委員長代理	赤羽委員 小澤委員 川島(一)委員 柴崎委員 吉田委員 道路局担当官 国総研道路研究官
	8	II	H 21	鋼橋の腐食劣化メカニズムの解明と耐久性診断に関する研究	琉球大学 准教授 下里 哲弘		
	8	II	H 22	【FS研究】 非破壊検査のための非接触音響探査法についての研究開発	桐蔭横浜大学 教授 杉本 恒美		
	8	II	H 22	【FS研究】 新たな超高周波電磁波を用いた道路建造物欠陥診断の研究開発	東北大学大学院 教授 小山 裕		

研究評価会 ソフト分科会  
議事次第(案)日時:平成23年2月下旬  
13:00~17:00※

場所:○○○○○○○○○

※ハード分科会については、研究数が4つ  
になるため、16:30頃の閉会を予定。

1. 開会
2. 挨拶、実施方法の説明(13:00~13:10)
3. 研究報告(1研究あたり30分)
  - 1)研究1(13:10~13:40)
  - 2)研究2(13:45~14:15)
  - 3)研究3(14:20~14:50)
  - 4)研究4(14:55~15:25)
  - 5)研究5(15:30~16:00)
- ~休憩(10分)~
4. 中間評価の実施(16:15~17:00)
  - 1)研究継続の妥当性評価について
  - 2)中間評価(案)のとりまとめについて 等
5. 閉会(17:00頃)

○15分報告(パワーポイント使用予定)  
○15分質疑応答  
○約10分審議  
○評価・準備用に発表の間に5分確保